

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



O022-P06

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

男鹿半島・大潟ジオパーク構想 The Oga Peninsula-Ogata Geopark Plan

竹内 弘和¹, 白石 建雄^{1*}

Hirokazu Takeuchi¹, Tateo Shiraishi^{1*}

¹ 男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会

¹Oga Pen.-Ogata Geopark Promotion Council

男鹿半島は日本海沿岸地域(グリーンタフ地域)新生界の標式地であり、地層群は日本海の出現を含む約5000万年間にわたる大地のドラマを連続的に伝えている。大潟村の広大な農地は日本最大の潟湖(八郎潟)の湖底が干拓されることによって半世紀前に出現した新しい人工の大地であり、肥沃な湖底堆積物の上で大規模農業が展開されている。

これらの地域は第四紀には圧縮応力場におかれ、非常に激しい地殻変動が進行している(日本海東縁変動帯)。このことを反映して男鹿半島には42万年前以降の3タイプの第四紀火山(戸賀火山、目潟火山、寒風火山)が存在し、新しい地質時代の地層は大きく変形している。また男鹿半島の海成段丘地形は大きな隆起傾向を物語り、八郎潟の地下地質はここが沈降地域であることを伝えている。

進行中の大地の変動はここで生活している人間に度重なる災害を及ぼしてきた。1983年日本海中部地震時の津波による多数の人命の損失と液状化による地盤災害は記憶に新しいが、1939年、1810年にもこの近傍を震源とする直下型地震によって大きな被害を被っている。これらの事実は多くの慰霊碑・記念碑の形で後世の人々に伝えられている。

以上のような素材にもとづき、我々は男鹿半島・大潟地域を人々が1)大地の物語、2)大地とひとの物語、3)大地の恵みの物語と出会う場所(ジオパーク)として構想している。

キーワード: 男鹿半島・大潟, ジオパーク, 新生代地史, 地殻変動, 地震災害

Keywords: Oga Peninsula-Ogata, Geopark, Neogene geologic development, Recent crustal movement, Seismic disaster